

電源立地地域温排水対策事業

天然資源調査

(抄録)

大川光則・川村俊一・佐藤晋一・塩垣優

1. 漁獲実態調査

- (1) 白糠地区においては小型定置網、刺網、一本釣、いか釣、いかなご棒受網の5漁業種類が行われている。
- (2) 年間の各漁業種別の漁獲量と漁獲割合はいか釣が2,496トン(65.2%)で、以下小型定置網888トン(23.2%)、棒受網397トン(10.3%)、一本釣32トン(0.8%)、刺網18トン(0.5%)であった。
また、漁獲金額では、いか釣が417百万円(59.3%)で、以下小型定置網159百万円(22.7%)、棒受網67百万円(9.5%)、一本釣38百万円(5.5%)、刺網22百万円(3.0%)であった。
- (3) 年間の魚種別の漁獲量と漁獲金額では、スルメイカが2,535トンで414百万円、サケが595トンで101百万円で全体の漁業生産に対して大きな割合を占めており、昨年同様、スルメイカとサケに依存した漁業であった。
- (4) スルメイカ、サケ、ヤリイカ、ヒラメ、サクラマス、カレイ類の漁獲量を昨年と比較すると、スルメイカ、サクラマスは増加したが、他の魚種は減少した。
また、活魚の取り扱いは、イシガレイが増加したが、ヤリイカ、ヒラメが大幅に減少した。

2. 生態調査対象種：マコガレイ

目的 マコガレイの生態知見を収集する。

成熟と産卵時期について生殖腺指数(生殖腺重量÷内臓除去重量×100)の経月変化から、成熟は12月頃から急激に始まるものと推定される。その後、2月になると放卵・放精を始める個体が見られ、指数も低くなるが、3～4月にかけて再び指数は高くなる。産卵は12～6月の長期にわたるものと考えられ、12～3月及び4～6月の2回のピークがあるものと推定され、産卵期を異にする2つの系群の存在が考えられる。

全長(TL)と体重(BW)の関係は、 $BW=0.0045TL^{3.3313}$ となっている。